

「曲水」(9-3)(9-4)に「あの頃のこと」(1)(2)掲載。
(9-3)に季題寸言3章。

「令女界」(3-1)に抒情小曲「春の挨拶」を載せる。

24日夜流觴居に俳句合評会ひらかれ出席。「前年末から続くこの合評会の記事は「曲水」(9-4)(9-5)に掲載」

2月・「曲水」(9-4)。季題寸言の選。「誰れ彼れ曰」欄。

「令女界」(3-2)。抒情小曲「落葉にあて」。

20日付鈴木宇太郎(三千代夫)宛書信に、父伊三郎の臥床を報せる。父の病氣は肺患であった。母方の遠戚、静岡県興津町河村医師の診療を受けていた。

3月・「曲水」(9-5)季題寸言の選。

「令女界」(3-3)抒情小曲「若き店員のうたへる」を載せる。

17日付鈴木三千代宛書信。(書信中、大久保とあるは、震後有楽町から東大久保に移居した海野晋吉一家のこと。弟欣也は大学在学中一時ここに止宿していた。)

中旬、伊三郎、伊豆伊東に湯治。

下旬、水巴、大阪府下豊中村延壽荘を引揚げ上京。

4月・「曲水」(9-6)、近詠5句、小品「風の中の唄——美しい思い出——」。

「令女界」(3-4)に抒情小曲「小鳥と星」。

29日・流觴居で俳句合評会。(「曲水」9-8)

5月4日・夜、吟社例会。席題「柳、行春」に2句。

「曲水」(9-7)。句帖に4句、「憚りなく言ふ」と「誰れ彼れ曰」各1章。「浜町雑記」を本号と(9-8)に載せる。

「令女界」(3-5)に抒情小曲「あきらめ」。(写真下)

6月・「曲水」(9-8)、季題寸言選及び1章。編集後記に

水巴は「あの頃のこと」「浜町雑記」の文章に敬服、と記す。

「令女界」(3-6)の附録楽譜に、厚作詞、室崎琴月作曲の

少女詩「芒の路」。なお、室崎琴月作曲、厚作詞の童謡「桃の咲く路」の譜面が、昭和56年9月室崎信子宅でみつかった。作詞年代不明。

「赤い鳥」(12-6)に白眉社が「子供達の歌」楽譜の広告掲載。

7月・島本医師の許に通い主として指圧による治療を受ける。同所で寒川鼠骨を見る。

「令女界」(3-7)に、少女詩「泉のうた」

8月・父伊三郎帰郷し、鷹

匠町の家に病を養う。

「曲水」(9-10)。季題寸

言選。

「令女界」(3-8)に少女

詩「午後十時」。

12日、満28歳。

24日付鈴木三千代宛書簡。

9月・「令女界」(3-9)

に少女詩「窓あかり」。

弟亮之助(筆名梨葉)、宝

文館少女小説集の第3巻とし

て、「夢の明暮」(装丁加藤まさを)を同館より出版。

10月13日付鈴木宇太郎宛書簡。

21日・父伊三郎宿痾重り下目黒寓居にて死去。

「令女界」(3-10)、少女詩「いつわり」。

